

Annual Report 2022

特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと
年次活動報告 2022年4月1日～2023年3月31日



代表メッセージ



Kuniko Morimoto



Yukari Enoi

2022年度は、「いくのコーライズパーク（略称：いくのパーク）」での、様々な活動始動のために走り続けた1年でした。大阪市担当部署との確認作業や、区役所や地域との調整、電気基幹工事や給排水工事、そのための資金調達、各テナントとの調整などを対応してきました。当初の予定をはるかに超える資金と労力が必要となり、頭を抱えることもありました。でも、壁にぶち当たるたび、人が与えられ、助成金や寄付金が与えられました。

おかげさまで事務所も移転し、「学習サポート教室DO-YA」「いくの図書室～ふくろうの森～」「いくPAの農園～ぐるぐる～」「いくPAのこども食堂～てんこもり～」「体験活動DO/CO」等が開設できました。また、「いくの多文化クロッシングフェス2022」や「いくの万国夜市」、「いろんなことば&いろんなえほんdeいくのっこパーク」などのイベントも実施できました。テナントもいくつかは無事に改修工事を終え、事業を開始しています。

1年を終え、「課題は祝福」であること、「苦難は希望」に変わると実感しています。跡地活用2年目、本格的に歩みだしていく「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりのため、今後も、私たちと共に歩んでくださいますよう、心よりお願い申し上げます。

代表理事 森本 宮仁子 / 榎井 緑

団体概要

名称： 特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと
所在地： 〒544-0034
大阪市生野区桃谷5丁目5-37 いくのコーライズパーク A棟2階
代表理事： 森本宮仁子、榎井緑
理事： 金谷一郎、川端麗子、木村和弘、宋悟（事務局長兼任）
監事： 田中逸郎、宮本圭造
団体設立： 2019年6月30日
法人設立： 2020年10月1日
職員： 事務局スタッフ9名（非常勤職員含む） および有償・無償ボランティア150名



▲ IKUNO・多文化ふらっと事務局スタッフ

沿革・受賞歴

2019年 6月 任意団体として団体設立
2020年 4月 （公財）日本国際交流センター「外国ルーツ青少年未来創造事業」助成金を受託
2020年 9月 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ（SSI）と協力プロジェクトを開始
2020年10月 特定非営利活動法人の認証を取得
2020年12月 御幸森まちづくり協議会との連携・協力協定の締結
2021年 4月 住友商事株式会社による社員参加型社会貢献事業「100SEED」事業の一環として伴走支援の開始（2023年3月末まで）
2021年 9月 御幸森小学校跡地活用事業に関する活用事業者募集プロポーザルの事業予定者に選定
2021年12月 大阪市長生野区役所と包括連携協定を締結
2022年 4月 当法人と株式会社RETOWNとの共同事業体により、「いくのパーク」の管理・運営を開始
2022年 4月 日本財団「子どもの第3の居場所事業」の助成金を受託
2022年 7月 多文化共生のまちづくり拠点となる施設『いくのパーク』へ事務所移転
2023年 1月 第13回 地域再生大賞「ダイバーシティ賞」受賞 ※一般社団法人大阪コリアタウンとの共同提案

関係団体・機関など

学校・大学、公的機関・企業など80団体以上

大阪市生野区において多文化共生のまちづくり拠点の構築を通じて、誰もが暮らしやすい全国NO.1のグローバルタウンをつくる

私たちの想い

大阪市生野区は、区民 12万6千人のうちの5人に1人以上が外国籍住民のまちです。100年以上におよぶ歴史とともに生きてきた在日コリアンの人々をはじめ、約60か国の外国ルーツの人々が暮らす多国籍・多文化のまちです。今や、大阪市内の公立小中学校に通う日本語指導が必要な子どもたちは、1200人以上に上ります。日本語指導が必要な外国籍高校生の中退率は、日本の高校生の5倍以上になります。

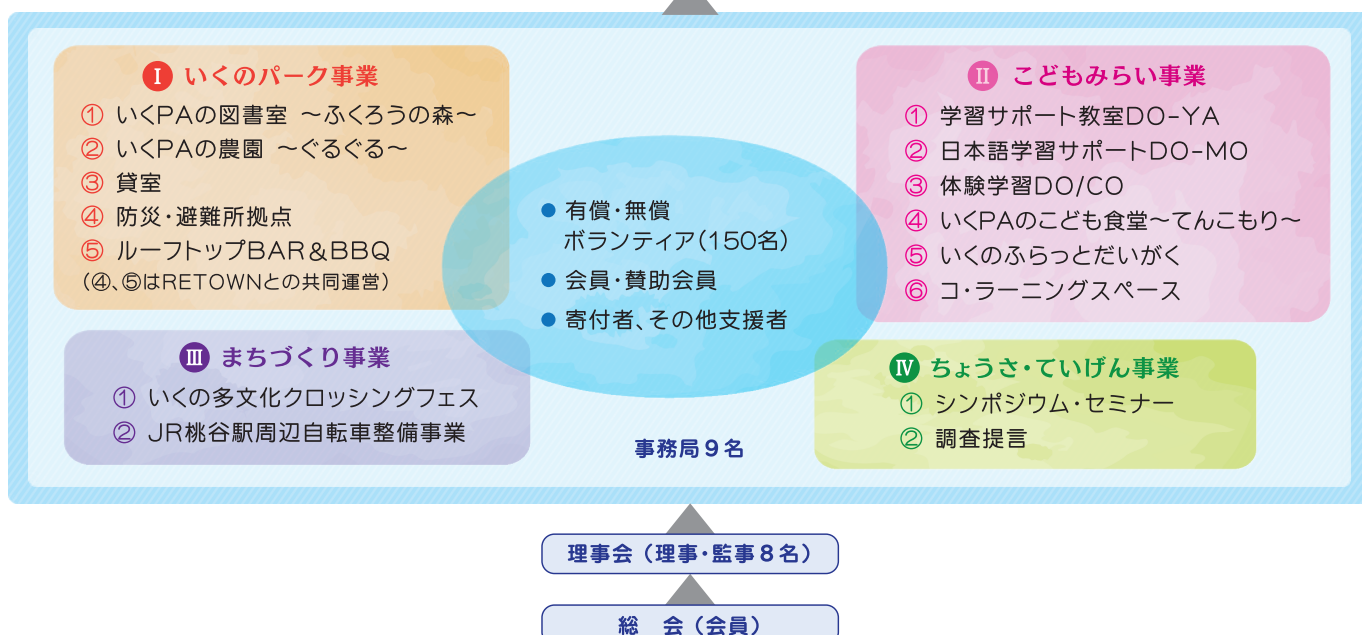
難民申請中のスリランカの中学生は、強制送還の不安を抱えながら、地域の学校に通っています。タイと日本のダブルルーツの高校生は、通信制高校に通い、一人で必死に働き、勉強し、暮らしています。教育、福祉、医療など生活課題の悩みを抱え、どこにも相談できず孤独の中で立ち尽くす外国ルーツのひとり親がいます。地域社会での日本人と外国人との交流機会の圧倒的な不足と意識の断絶。多文化共生に向けた基本法に基づく外国人の人権保障を謳う総合施策の不在など、いくつかの厳しい現実と大きな障壁が立ちはだかっています。

国籍や民族などの違いに関わらず、誰もが自信をもって、安心して、自由に生きる普遍的な権利を有しています。未来に必要なとされる新しい価値や社会的仕組みは、同質性の中からではなく、多様性の中から生み出されます。葛藤や摩擦をはらむ多様性こそが、新しい社会に向けたイノベーションの源泉にほかなりません。私たちには、「混沌」と「危うさ」を抱きしめ、前に進む勇気が求められています。私たちは、日本人も外国人も、そして誰もが暮らしやすいグローバルタウンを目指します。私たちは、寛容で多様性があふれる地域社会、「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりに挑戦します。



▲ 体験活動DO/CO ネパール餃子モモづくり (2023年2月25日)

IKUNO・多文化ふらっとのビジョンの実現



つなぐ まなぶ たべる はたらく つどう たのしみ つたえる まもる 8つの包括的機能をもつ

多文化共生のまちづくり拠点 いくのコーライブズパーク (いくのパーク)

大阪コリアタウンに隣接し、2021年3月に閉校になった大阪市立御幸森小学校の跡地を活用し、生野区において初となる「災害・避難所機能」「地域コミュニティ機能」「多文化・多世代、新しい学び機能」を持つ施設が、2023年5月にグランドオープンを目指します。

いくのパークは、「食を通じたまちづくり」に取り組む企業株式会社RETOWNと、「多文化共生のまちづくり拠点の構築」を目指す NPO法人IKUNO・多文化ふらっととの共同事業体が運営主体となり、今後20年間にわたって多文化共生のまちづくりに挑戦します。

01 喫茶室みゆきもり

喫茶店 C棟 1F



地元の方はもちろん、老若男女、国籍を問わず誰もが居心地よく過ごせる、まちの喫茶店。

| OPEN | 11:00~18:00
※最新情報はInstagramへ
| TEL | 06-6777-9510
@ kissamiyukimori

03 飲食大学

教育 C棟 1F

INSYOKUJIN COLLEGE

飲食大学

これから飲食業界で働こうとする人、既に飲食業界で働いている飲食人のための学校。

| OPEN | 11:00~18:00 / 日祝休
| URL | insyokujin.ac/
| TEL | 06-6645-0721
@ inshokujindaigaku.sushi

06 8784(準備中)

アパレル B棟 2F

07 48STUDIO

撮影スタジオ B棟 2F

YouTuberのための撮影スタジオとして、またYouTuber育成教室や、中学生・高校生向けに動画クリエイターの授業を行う。

09 合同会社Marca

事務所／倉庫 C棟 2F

11 シェアキッチン(予定)

シェアキッチン C棟 2F

15 済州 in 大阪センター

事務所／倉庫 B棟 3F

韓国・済州島のヒト・モノ・情報を紹介します。

02 MARCA BREWING

ビール醸造所 C棟 1F

MARCA BREWING

堀江のビール醸造所が工場を移転予定！

| URL | <http://beermarca.com/>
| TEL | 06-6710-9487
@ beer_marca

04 多目的室

多目的室 B棟 1F

識字教室や子ども食堂などで、定期的に入々が集まる場所。レンタルスペースとしても貸出中。

| URL | www.ikunotabunkafiat.org/rent-space
| TEL | 06-6741-1123

05 日本ドローン機構株式会社

ドローン事務所 C棟 2F



ドローンスクールを全国に展開。機体の販売から修理までアフターサービスも充実！

| OPEN | 11:00~18:00 / 日祝休
| URL | jpndo.com
| TEL | 03-5050-2650
@ jdo_info

08 はかり 秤(準備中)

カフェ B棟 2F

10 フローズンラボ(準備中)

食品加工所 C棟 2F

16 大阪聖和保育園

子育て支援・多機能センター B棟 3F



保育と親子の広場。詳細はお問合せください。
一時保育 9:00~17:00 / 最長8:00~18:00
休日保育 9:00~17:00 / 最長7:30~18:30
つどいの広場 9:00~14:00 / 日曜~木曜
| TEL | 06-6777-2580



12 アートギャラリー

ギャラリー B棟 2F

13 海鷗トラベル株式会社

旅行会社 B棟 3F



「いつでも どこでも どなたでも」をモットーに、すべての人が自由に旅行するためお手伝いしています。貸切バス・新幹線車いす席の手配など、国内外問わず承っております。

| OPEN | 9:30~17:30 / 土日祝休
| URL | www.2osk.3web.ne.jp/~kaiou/
| TEL | 06-6777-6500

14 KPOPダンススクール(仮称)

ダンススクール C棟 3F

子どもから大人まで真新しいスタジオでKPOPダンスを楽しめます！

17 ROOF TOP TERRACE アナザームーン／いくのBBQスカイパーク

バー／BBQ B棟 4F



大阪市内のド真ん中に！300名が入れるBBQ場がオープン★大阪コリアタウンで好きな食材を集めるも、手ぶらで楽しめるも良し！

| OPEN | 9:00~22:00
| URL | <https://ikuno-bbq-skyark.info>
| TEL | 080-3605-1669

18 UMANARU

キッズスクール C棟 3F

スポーツ特化スクール

UMANARU

小学校高学年から中学生の成長段階に応じた正しい体の使い方を伝授する少人数制スポーツスクール。

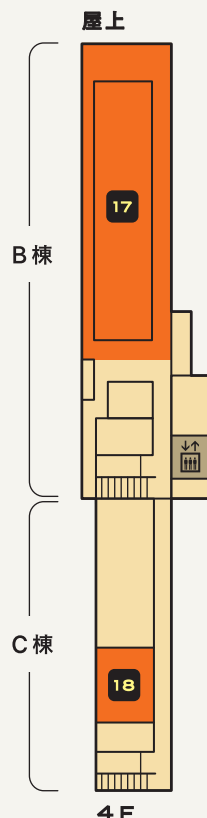
@ umanaru.sports

19 キックアーツテコンドー

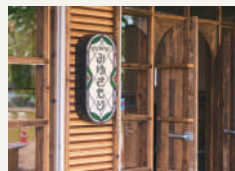
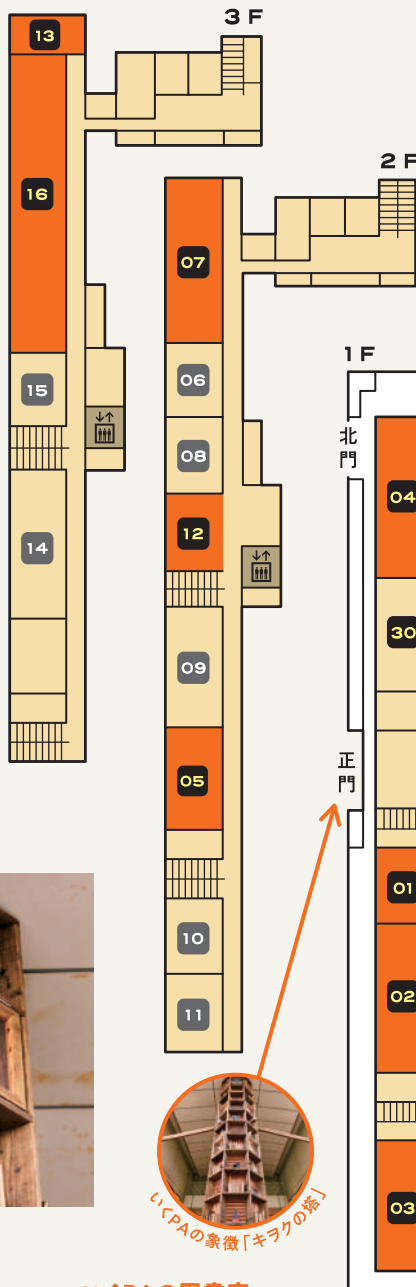
テコンドー教室 A棟 1F

テコンドーを通して礼儀や精神面の向上を図るテコンドー教室。初心者から選手を目指すクラスまで幅広く展開中。

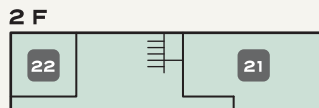
| OPEN | 火金
幼児初心者&キッズクラス 18:00~19:15
一般成年クラス 19:30~21:00
| URL | www.itf-h.com/
| TEL | 0800-100-9797
@ kickarts_taekwondo



B棟・C棟



A棟

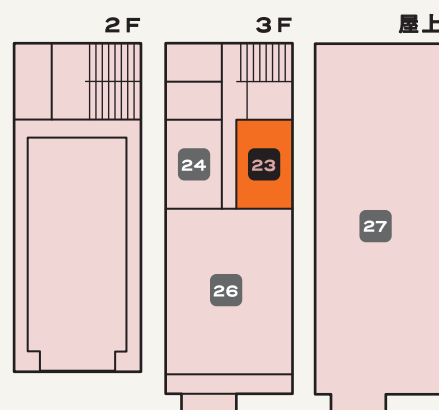


IKU PA いくのぱー

GUIDE MAP



講堂棟



**25 B GROUND
スポーツコート**

スポーツコート/バスケットボールスクール 講堂棟 1F



B GROUND

様々なスポーツを楽しめるレンタルコート。プロバスケットボール選手としてBリーグで活躍した「今野翔太」が代表を務めるバスケットボールスクールも開校しています。

URL | www.bground-sports.com

TEL | 06-6777-8899

@ b_ground_sports

27 屋上キャンプ場(準備中)

キャンプ場 講堂棟 屋上

28 いくPAの農園～ぐるぐる～

市民農園 グラウンド 東側

無農薬で野菜やハーブを育てながら、子ども達の学びの場・多世代交流の場として多くの人がつながる場。

TEL | 06-6741-1123

29 タイムズ駐車場／カーシェア

コインパーキング グラウンド 南側

**30 イタリアンレストラン
猪飼野(準備中)**

レストラン B棟 1F

**20 いくPAの図書室
ふくろうの森**

図書室 A棟 1F

図書室

ふくろうの森

地域の方々が自由を楽しめる、まるで森の中にいるような心地よい図書室。

OPEN | 火金土 10:00～17:00

TEL | 06-6741-1123

※ 2023年7月から日曜日もOPEN予定

**22 特定非営利活動法人
コリアNGOセンター**

在日コリアン人権団体 A棟 2F

特定非営利活動法人

コリアNGOセンター

コリアNGOセンターは、「人権」「平和」「共生」「自立した市民」という理念のもと、在日コリアンを中心にして設立された特定非営利活動法人です。

TEL | 06-6711-7601

**21 特定非営利活動法人
IKUNO・多文化ふらっと**

NPO A棟 2F



特定非営利活動法人 IKUNO
多文化ふらっと

困難を抱える子ども・外国ルーツの子どもたちに寄り添う学習サポート教室DO-YA、体験活動DO/CO、こども食堂てんこもり、いくPAの図書室ふくろうの森、いくPAの農園ぐるぐるを運営しています。

TEL | 06-6741-1123

24 在日本関西韓国人連合会

事務所 講堂棟 3F

23 みゆきもり美術研究所

アート 講堂棟 3F

みゆきもり美術研究所
Miyukimori Art Institute

デッサンを中心に美術創作活動を行っています。

OPEN | 9:30～16:30

26 株式会社RETOWN

まちづくり 講堂棟 3F



まちの本来のポテンシャルを再編集し発信する拠点づくりを行うローカルディベロップ事業や産地と消費者を直接繋ぐ産地活性化事業を行う。

TEL | 06-6777-2554

※ 2023年3月末現在



座談会

小さな声が担うまちづくり まちづくりに織り込む防災と多文化共生

— 真備町(岡山)と生野(大阪)をつないで —

2018年7月7日、西日本豪雨が岡山県倉敷市真備町を襲いました。まちは浸水し、最深部は5.4m、死者51名、被災家屋5600棟という甚大な被害がでました。

この座談会には、真備町で「精神障害」といわれる生きづらさを抱えた当事者たちが中心となって活動するNPO法人岡山マインド「こころ」から、矢吹顕孝さんと多田伸志さんに当時の被災状況や復興の中で感じてきたことなどを話していただきました。

また、交通バリアフリーを専門とする東北福祉大学の石塚裕子さんから、マインドに出会うまでの経緯や災害時における障害とは何かについて話題提供いただき、その後「小さな声」と「まちづくり」について活発な意見交換が行われました。

参加者

- 矢吹顕孝さん (NPO法人岡山マインド「こころ」)
- 多田伸志さん (NPO法人岡山マインド「こころ」)
- 石塚裕子さん (東北福祉大学教員)
- 渥美公秀さん (大阪大学教員)
- 森本宮仁子さん (NPO法人IKUNO・多文化ふらっと)
- 宋悟さん (NPO法人IKUNO・多文化ふらっと)

小さな声に気づいてくれた仲間たちと

矢 吹 被災してからでは遅い。それまでにつながりがないと、どこに誰がいるかもわからないし、声かけもできない。ふだんのつながりがとってとても大事だと災害であらためて感じました。コロナ禍になってまちな行事もほぼ中止になりましたが、居場所がないと不安になる人が多いので、感染対策をしながらも居場所を守り続けてきました。自分たちからはなかなか言えないし、緊張してしまうし、声をあげづらかったりとか、迷惑なとか、人と会うのがしんどいとか思ってしまう。それに気づいて声を拾ってくれて、伝えてくれる人って本当にありがたいです。そういう人とかかわり続けて、自分たちも居場所や役割を考えて、持てるようになって、仲間が新しい人と出会っていく。みなさんともそうです。

最初苦しかったです。災害があつてつながったこともあります。被災された人の話を聞いて回る「数珠つなぎプロジェクト」で、新しくまちづくり協議会の人と話して新しいつながりができたり、多田さんのように私たちと地域をつなげてくれて、居場所をつくってくれて、守ってくれる仲間がいて、災害の前と比べて関係がより深く強くなったような感じがします。日頃から地域でさまざまな仲間とのつながりが大事だと認識して、かかわってくれる人と幸せになれるようなつながりを、生野の方がたともできたらと思っています。

災害時の“障害”について考える

石 塚 災害時における障害というのは、日常時に増して課題が多いと強く感じました。そこから災害と障害に取り組んでいこうとしたところ、2018年に真備町で災害があり、マインドの多田さんや矢吹さんに出会いました。災害時の課題というのはいろいろ言われているけれど、復興という段階で社会的障壁を感じている人たちの声、小さな声と言っていますが、その小さな声が届く場というのがすごく不足している、ほとんどないに近いと感じています。

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震と大きな被害あるたびに、障害当事者たちは自分たちはこういうのが困るという情報発信、要望や提言をしています。変わっていないのが現状です。当事者の身になってそれを想定して制度も対応もされていないということが30年続いています。日頃の防災対策計画に当事者も一緒に入って考えることが必要だということを、当事者が発信し続けていますが、そうなっていません。こんな当たり前のこと、根本的なことが変わらずに30年が過ぎてしまっています。

Nothing about us without us (私たち抜きで私たちのことを決めないで) というキャッチフレーズがありますが、災害の分野ではまさしくその通りその一歩も踏み出せていません。単純な結論ですが、災害対策や防災の取り組みに当事者参加を進めていくかというのが結論です。対等に話ができる関係づくり、まちづくりに小さな声の人が入って意思決定ができる仕組みづくりを、今後もしていきたいと思います。

「まちのために」とやる続けることで、 ありがたいの貯金が増えて、まちとつながる

森 本 いくのパークを掃除していると、いろんな人が来るから、「こんにちは、こんにちは」と言っていると、「ここは何ですか？何するところですか？」と聞いてくれる。声をかけることで、傍観者だった人が仲間に入っていくということがあります。

「知らなかった人が仲間になる」「まちの外から来た人が仲間になる」「被災したら遅い、それまでの出会い、つきあいが大事」…本当に私たちがここでやろうとしているのはそういうことだと思いました。ここで出会う人たち、ここにいろんな人が来てくれて、何かの時、どうしていったらいいかを考えていけるのかなと思いました。石塚さんの「私たち抜きで私たちのことを決めるな」という当事者が主役になるまちをつくっていくのかなと思い、夢が広がりました。

宋 真備町は居心地のいいまちだが、最初からそうだったわけではないという、その変化やきっかけにどういった要因があったのか。聞いていて、地域の人と一緒に何かをする量が多いなという印象を受けたんですが、そのあたりに何かあるかを聞きたいです。

多 田 まきび病院という24時間全開放の病院ができるらしいよとなったときに、地域から反対の声があがります。先生は看取りとか、地域のみなさんのお役に立つ病院にしたいと汗を流してくれました。ご迷惑もいっぱいかけるんですけど、ありがたかったことに、病院の患者さんはあっちこっち行ったり、いろんなことがおこ



るんですけど、まちの人を傷つけたことが一度もなかったんです。まちのみなさんから、だんだん「ああ、まきびの人やな」と。

そのうち、何かあれば病院に電話くださるようになって、僕らが「すみません。ご迷惑かけました」って行くと、「あんたさんの患者さんがあがって味噌汁飲んでおるぞ」って(笑)。まきび病院から出て、最初にグループホームをつくらうとなったときにやっぱり反対運動がおこるんですよ。それは僕がちゃんと顔見せてないから怖いわけで、マインドのみんなが溝掃除をやったり、外に出てやり続けて、今から12年前にグループホームとピアホールを併設しました。そこから隠し事なしで、調子がいいときも悪いときも地域の人に全部見ていただくようになってきたら、まちの人が、「あいつらへんちくりんやけど、悪い人じゃないな」って。

こうしてまちがだんだんやさしくなってきたわけです。そこで災害が大きかった。矢吹さんたちがまちの人のために、毎月ビールと音楽の夕べを自分たちでテント出して椅子を出して、やっていくわけです。それを続けて、ありがたいの貯金が出来た。あの後から風がいきなり変わって、あの時にまちとつながった。そんな気がします。

宋 示唆的だと思います。もう少しつつこむと、非合理的なことが地域の中で起こると思うんです。多田さんと前回話したときもすごいなと思ったけど、こういう時にどう思ったらいいのか。

多田 小さいまちなので、そういう人もおられると思うし、声の大きい人たちもいるし、その人たちを敵にしないように、「すみません」って言って、これをやり続けてきたんですよ(笑)。

そのうちあきらめて、そういう人たちも世代交代されていくから。最初はまちの目を気にしましたが、今はあまり気にしなくてもいいようになってきているかもしれない。すごい息がしやすくなった。

石塚 矢吹さんが、「小さな声の人だけでなく、私たちにかかわった人みんなが幸せになれたらいい」とまとめられていたのが、いいなって思って聞いていました。

…私たちの中にもありますよね、言いたくないこととか、つらいこととか、人には言いにくいこととか、それを解放して人に伝えるというすごい力が矢吹さんにあるんだなって。…自分たちもその場に出していくってことがすごく大事だなって思っています。

仲間、安心して暮らせる場、安心して語れる 関係性がつながりの貯金をつくる

渥美 矢吹さんが小さな声に気づいてくれる人がいてくれるとありがたいと話されたけど、小さな声を聞ける人をどうつくったらいいか、小さな声を聞いてくれるようにするにはどうしたらいいか、考えていく必要があると思っています。

災害のニーズを障害者、高齢者といったくくりではなく、困りごとから入ろうというのがあります。当事者を呼びましようはもちろん大事ですが、障害、今度は国籍、こういう病気がある…等々、こうなると一堂に会する方がいいのか、でもそれは現実的ではないじゃないですか。これをどうしていけばいいのかを考えないといけないなと思っています。

矢吹 僕ものすごく恵まれているんですよ。多田さんとかいて、真備連絡会もそうだし、つくってくれて。僕たち主体でやってくれるんです。小さな声に気づいてくれて、僕らを下からぐっとこう持ち上げてくれる存在がいてるんです。

…やっぱり、僕らドタキャンもあるし、講演会いっても途中で帰ったりとか(苦笑)、それでも理解してくれる人が何人かいて、そういう人を少しずつ増やしていく、つながっていくっていうか。



▲ NPO法人IKUNO・多文化ふらっと事務所(2023年4月30日)

渥美 小さな声に気づく人も必要だけど、気づいてもらう人も必要で、そのための日頃の活動を支える多田さんみたいな人も必要で、全部がかかわってくる感じのものなのかなと思いますね。

多田 精神障害と言われる人は、医療機関や福祉の機関でけっこうつらい場面にあっているから、自分のことを安心してカミングアウトできない、病院で本当のこと話したら余計に治療される、薬が増えるとか退院させてくれないとか、みんな本当のことを言えない、権利を既に奪われている状況がたくさんあります。そのなかで自分のことを安心して言える、言ってもとがめられないという「てぐりあいの場」という語りあいの場から始まるんです。

まず仲間同士の中でもなかなか勇気がいるのですが共有すること。安心できる人間関係の小さな場ができるようになると、今度はそこで話しているだけじゃなくて、あそこに行ったらあの人に聞いてもらおうよとか、それが積み重なって、今ではマインドのみなさん講演会に堂々と出ていって、堂々とドタキャンありの講演をやって、会場のみなさんを泣かすんですよ(笑)。それくらい安心して語っているという関係性にみんなが涙するんですよ。あそこまでは、仲間と、安心して暮らせる場、やっぱり暮らしが安心してなかったら絶対できないし、そういう小さなところからみんなできりあげてきて20年かかったかなって。まきび病院からいっただもって長いんですけど。つながりの貯金といいますか、安心の。

いくのパークは本気で混ぜる場所でありたい

森本 保育園で障害のある子たちと運動会やクリスマスやると本当に同じことが起こっています。リレーをやってそれが終わったときには、見てる親がみんな泣いているっていう。障害のある子とない子がどうやってリレーやっているかっていう姿を見て、涙するっていう。終わって、先生こんなすごいもの見せられて、私ら反省させられるって。いつも勝つか負けるか、自分の子がどうかってばかりやったけど、仲間と育っているんですよ。

うちは障害のある子にぜひうちに来てくださって頼みこんで、入ってもらっているんですよ。そうでないと本当に保育がおもしろくない。だけど、その後の小学校から分断されていっているんです。どんどん特別支援学級、特別支援学校が増えている。健常者に近づくことばかりをやるから、仲間と育つという経験を、小中高、そして大学までほばない。異質な人と出会わないから、そこから地域のなかで紡ぎ直さないといけないという課題があります。

宋 国籍や民族の違いだけでなく、障害があるとかないとか、他にもいろいろ含めて、全部含めてってやっていく。前にふらっとの理事の木村さんが「いくのパークは本気で混ぜる場所」と言った、なるほどなと。そういうことを、IKUNO・多文化ふらっとでやっていきたいなと思っています。

今年度から当法人は、株式会社RETOWNとともに多文化共生のまちづくり拠点「いくのパーク」の管理運営を始めました。
7月末の事務所移転以降、農園、図書室、貸室運営など新規事業を立ち上げて事業を展開しました。

1 いくPAの農園～ぐるぐる～

無農薬の野菜を「育てる」、農園で「学ぶ」、農園で「つながる」をコンセプトに、多様な国籍や文化を持つ人々、子どもから高齢者まで多文化・多世代の出会いと交流の場を提供しました。地域のボランティアがたくさん参加する中、土壌改良、雑草抜き、苗植え、収穫イベント、交流セミナー、朝市の開催など精力的に活動を実施することができました。



活動回数

37
回ボランティア
登録者数100
名延べ
参加者数423
名

野菜栽培に興味のある方は、ぜひ農園サポーターにご登録ください。



2022年6月～2023年3月

毎週金曜日と毎月第二土曜日を農園の基本活動日としています。



▲ マザーファーム「ひまりえん」による指導・助言



▲ 朝市の様子

3 多目的室等の貸室

多目的室、図書室及び事務所スペースを貸室として積極的な利用を促し、「いくのパーク」の社会的意義である「つながり」「学ぶ」「交流する」場所としての役割を高めることができました。また収益事業の役割も一定担うことができました。

利用件数

97
回

利用者数

1,827
名

時間貸し利用のご案内は
下記QRコードより



2022年9月～2023年3月

4 防災・避難所拠点

「いくのパーク」は、大阪市内において地震その他による災害が発生した場合または発生する恐れがある場合、「避難所」として使用することになっています。そのため生野区役所と協議を重ね、「いくのコーライズパーク災害時安全対策マニュアル」(案) および「災害時における災害時における避難所当施設の使用に関する協定」(案)の策定準備を行いました。また外国人集住地域であることも踏まえて、今後「いくのパーク」独自に外国人住民に向けた防災活動の環境整備に務めていきます。

2 いくPAの図書室～ふくろうの森～

9月18日の開所式以降、毎週火曜日・金曜日・土曜日の週3日午前9時から17時（現在は午前10時から）図書室を地域に開放しています。

地域のボランティアを軸に、事務局スタッフがサポートする運営委員会方式で運営することができました。（2023年7月からは日曜日も開室予定。）



▲ふくろうの森のせんげん

	開室日数	大人	こども	計
9月	4日	22名	11名	33名
10月	15日	71名	67名	138名
11月	14日	55名	63名	118名
12月	12日	50名	52名	102名
1月	15日	44名	40名	84名
2月	11日	48名	52名	100名
3月	11日	42名	49名	91名
計	82日	332名	334名	666名



▲図書室～ふくろうの森～開所式(2022年9月18日)

「Tomo-Tomo文庫」の設置

（公財）日本国際交流センター（JCIE）による「外国ルーツ青少年の未来創造事業（SYDRIS）」（2020年度～2022年度）助成の実行団体である当法人は、SYDRISを通じて住友商事株式会社の社員参加型社会貢献事業の一環としてプロボノ支援を受けてきました。

2022年度には、同社の海外駐在員の方々から現地の多言語絵本を寄贈していただき、いくPAの図書室に「Tomo-Tomo」文庫が開設されました。文庫の名称は「とも＝共に、友だち」に由来します。2023年3月現在、多言語の絵本は200冊を超えています。



▲Tomo-Tomo文庫 住友商事株式会社から多言語絵本の寄贈



▲いろんなことば&いろんなえほんde いくのっこパーク 多言語読み聞かせの様子(2022年11月3日)



▲図書室の入り口にある木彫りのふくろう



▲いくPAの図書室～ふくろうの森～でくつろぐ子どもたち

家庭環境の格差が教育格差につながり、貧困や多文化の家庭の子どもたちの人生の選択肢を狭めることがないように学習支援活動の拡充、こども食堂の新規発足、体験活動の再始動に取り組みました。

1 学習サポート教室 DO-YA

NPO法人クロスベースとの共同運営で、中高生は原則毎週月曜日・水曜日・木曜日、小学生は水曜日・木曜日・土曜日に実施しました。中高生は教科・日本語の個別指導、小学生は宿題や遊びについて取り組みました。

学習に加えて、子どもたちとの対話・「雑談」の時間も重視することで、相談機能の役割もはたしました。



▲ 小学生DO-YAの様子



▲ 小学生の勉強風景

基本ルール

【 講師や事務局スタッフが守るべきルール 】

- 1 子どもが「自分のことは自分で決める」ことを最大限尊重する。
- 2 学び続ける力を信じる。
- 3 認め／認められる場をつくる。

受講者数

59
名

小学生14名
中・高生45名

受講者ルーツ

8か国

日本、韓国・朝鮮、中国、
ベトナム、フィリピン、タイ、
ネパール、スリランカ

延べ
受講者数

1,858
名

小学生435名
中・高生1,423名

実施日数

229
日

進学実績

中学3年生15名中
15名が志望校に進学



▲ tomo-tomoワークショップ

支援した子どもの事例

- 難民申請中で「仮放免」の外国ルーツの中学3年生
- 新型コロナで生活困窮に陥ったニューカマー世帯の継続的な支援
- ネグレクト状態で日本語指導が必要な子どもを公的施設の支援者と連携しての見守り
- アルバイトをしながら一人暮らしで通信制高校に通う外国ルーツ高校生の日本語サポート
- 学校生活が理由で不登校となり日本語を使う機会も少ない外国ルーツ小学生 など



▲ 中高生の勉強風景

2 日本語学習サポート DO-MO

日本語指導が必要な子どもに専門性を持った講師が個別指導を行うとともに、進学相談・支援者養成にも取り組みました。また、外国ルーツのダイレクト生（海外から直接来日し日本の学校に在籍していない子ども）の包括的支援も実施しました。



1 日本語学習

受講者数

25
名

DO-YAに参加して
いるうち日本語
指導が必要な子ども

延べ
受講者数

847
名

▶ DO-MO受講生の声 【中国ルーツの高校1年生】

この教室で日本語を学習しています。中国語を話す先生がいたので、大変助かりました。学校では日本語で勉強するので理解ができないことが多いですが、中国語で説明を聞くとすぐ理解でき、日本語力もどんどん伸びました。また家で勉強する時はテキストの内容に限られていましたが、この教室で先生と一緒に勉強しながら、色々なことを教えてもらい自分の視野も広がってきました。

2 「外国につながる子どもの日本語／学習サポート養成講座」の実施

回数	実施日	内 容	参加者数
第1回	9月25日	外国につながる子どもの現状と課題	13名
第2回	10月 1日	外国につながる子どもの困りごと	15名
第3回	10月 8日	外国語としての日本語	15名
第4回	10月15日	やさしい日本語	13名
第5回	10月22日	日本語で日本語を教える	15名／計:71名

3 「外国につながる高大生による小中学生支援のためのサポーター育成プログラム」の実施

回数	実施日	内 容	参加者数
第1回	2月18日	1. 支援力の向上 2. 日本の学校 3. 日本文化と暮らし	10名
第2回	2月25日		9名
第3回	3月11日		9名
第4回	3月18日		9名／計:37名



▲ 育成プログラム1回目(2023年2月18日)

4 教材開発等

日本語アセスメント教材ネットワークを活用したモジュール学習教材を作成するとともに、教材ネットワークデータベースを構築しました。

5 外国ルーツのダイレクト受験生の同行支援

ネパールの子ども2名に対して多言語進路ガイダンス、大阪府教育庁、学校説明会、学校等への同行支援及び書類作成等の支援を行いました。

3 体験活動 DO/CO

多様な体験活動を通じて「広い世界、異なる他者、未知なる自分」と出会う機会を提供します。子どもの主体的な参加により、より深く楽しい学びや気づきが生まれます。新型コロナ禍が収束に向かう中で、体験活動を再開しました。

外国ルーツ青少年多文化キャンプ2022 ▶
(2023年3月30日～31日)



▲ 壁塗りワークショップ(2022年8月27日・28日)



▲ 多文化クロッシングフェスこどもカフェ (2022年10月30日)

実施日	内 容
8月27日・28日	壁塗りワークショップ
9月10日	IKUPAの農園「ぐるぐる」で苗植え体験!
10月30日	多文化クロッシングフェス こどもカフェを運営しよう!
11月 6日	同志社大学キャンパスツアー 大学の学園祭に行ってみよう
1月21日	留学生と一緒に!国際運動会(近畿大学国際学部岡崎ゼミと共催)
2月 4日	芝生張り・農園お手入れ体験
2月25日	ネパール餃子モモにチャレンジ(神戸医療未来大学と共催)
3月30日・31日	「外国ルーツ青少年多文化キャンプ2022」(NPO法人アレッセ高岡と共催)

実施回数

延べ
参加者数

13
回

304
名

※大人の参加者174人のうちの大半がボランティアないしスタッフとしての関わりである。

〈英語カフェ〉～英語で体験活動

実施日	内 容
5月27日	ボードゲームで英語体験 ①
7月18日	ボードゲームで英語体験 ②
10月14日	カードゲームで英語体験
1月 7日	アメリカ発祥のニュースポーツ スパイクボールで英語体験
2月 4日	修復的司法の手法を用いた英語対話



▲ 同志社大学キャンパスツアー (2022年11月6日)



▲ 留学生と一緒に!国際運動会(近畿大学国際学部岡崎ゼミと共催) (2023年1月21日)

4 いくPAのこども食堂～てんこもり～

小学生から高校生までの子どもたちが集い、出会い、思い思いに過ごせる居場所。年齢を超えた交流を通して、仲間づくりの場となりました。また子どもたちが調理準備、配膳、片付け等を通じて生活習慣を身に付けながら、自己効力感を高める機会となりました。

開催日時

実施回数

延べ
参加者数

毎週金曜日
15時30分
～19時

27
回

491
名

2022年9月～
2023年3月

子ども・
ボランティア
等含む

▼ 食事風景



その他の活動

実施日	内 容
10月14日	世界の飲み物飲み比べイベント
10月28日	ひまりえんのなたまめ茶ティーバック作り(クロッシングフェスで販売用)
11月11日	韓国ソウル ソンミサン学校の学生と交流
12月 2日	マジックパルーンショー
2月17日	近畿大学金ゼミの学生による「職業体験」
その他 大阪農業大学校からの定期的な食材提供、企業・団体からの食品の寄付多数。	

5 いくのふらっとだいがく

「ひとびとのあいだのちがひ」と「ひとびとのくらし・生活」からまなぶ、ということ大切に大学と地域をつなぐ学びの場として開校しました。大阪大学(社会ソリューションイニシアティブ/COデザインセンター/未来共生プログラム)との協力プログラムとして「いくのパーク」を拠点にセミナー等を開催しました。



▲ ふらっとだいがくの様子(2022年12月18日)

1

開校イベント 映画「阿賀に生きる」「それからどうしたいっ!『阿賀に生きる』その後」の上映会ならびに佐藤睦監督と旗野秀人プロデューサーのトーク

実施日 10月15日(土) 14:00～19:30

2

「差別をなくす社会のためにやってきたこと～研究者でアクティビストが語る～」【いくのふらっとだいがく×大阪大学未来共生プログラム10周年記念事業vol.1】

開催日 12月18日(日) 14:00～16:00

語 り 梁・永山聡子さん(成城大学グローバル研究センター)

聞き手 高橋綾さん(大阪大学)

3

マイノリティとして生きること～30代在日朝鮮人男性研究者としての私の経験～【いくのふらっとだいがく×大阪大学未来共生プログラム10周年記念事業 vol.2】

開催日 2023年1月22日(日) 14:00～16:00

語 り 呉永鎬さん(鳥取大学)

聞き手 瀬戸麗さん(大阪大学大学院)

4

あなたがふと口にしたその言葉、大丈夫?～日常生活に潜む暴力・マイクロアグレッションを「知る」

開催日 2023年3月17日(金) 18:00～20:00

全体進行 ほんまなほ(大阪大学COデザインセンター)

企画進行 金子麻理(大阪大学大学院修士課程)
道晴奈(大阪大学大学院/日本学術振興会特別研究員)
本敦成(大阪大学大学院博士後期課程)

6 コ・ラーニングスペース

自主的に「学ぶ場」、「つながる場」、「溜まる場」をつくります。10月以降、毎週金曜日の放課後に21時まで、いくPAの図書室～ふくろうの森～を開放しました。子どもたちが学びたい学習課題には大人の専門家と一緒にプロジェクト型の学びにも挑戦しました。

2月11日の
参加者数

延べ
参加者数

6
名

85
名

行 事 小学生向けのプログラミング教室～Pepperを動かしてみよう～

開催日 2023年2月11日(土)

「出会いと交流」の機会がないことが不安と不信の土壌をつくります。当法人として多様な文化的背景を持つ人同士が出会い、交流できる新規イベントを実施しました。多文化共生のまちづくりに向けた相互理解と土壌づくりのための機会となりました。

1 いくの多文化クロッシングフェス2022／いくの万国夜市

延べ参加者数

約
4,000
名

※29日前夜祭を除く

国籍や民族、世代などの違いをまたぎ多様性を演出する、多文化共生のイベントを開催することで、多文化共生のもつ豊かさや可能性を体感する機会となりました。

また今後の生野区の夜のにぎわい創出を企図した「夜市」を開催することで、以降の可能性と課題を再発見することができました。

開催日 10月29日、30日(日) 11:00～21:00

主催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと／株式会社RETOWN

共催 韓国大阪青年会議所

協力 生野区役所、御幸森まちづくり協議会、大阪市立新興中学校、近畿大学国際学部岡崎ゼミ、Teamハンマウム

協賛 アサヒビール株式会社、ロート株式会社いくP、株式会社大都

内容

- 多国籍・多文化ステージ：参加団体19
- 体験・ゲームを通じた異文化理解～WORKSHOP&GAMEなど
- 「いくの万国夜市」多国籍料理の屋台：16
- クロワッサンサーカス、ステージ音楽など



2 いろんなことば&いろんなえほん de いくのっこパーク ～ 多言語「えほん」のよみきかせ 子育てひろば

参加者数

約
300
名

2022年度に大阪府下で8校目の「日本語指導が必要な帰国生徒・外国生徒入学選抜」を実施する府立大阪わかば高校の外国ルーツ生徒による多言語絵本(10言語)の読み聞かせイベントを実施しました。生野区に暮らすたくさんの乳幼児を中心に親子が参加し、柔らかな多文化共生の空間をつくることができました。

開催日 11月3日(木・祝日) 10:00～14:30

主催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと／大阪府立大阪わかば高校／生野区役所

協力 大阪市私立保育連盟生野ブロック協議会など

協賛 荒木産業株式会社、大阪生野ライオンズクラブ、ロート製薬株式会社など

内容

- 外国ルーツのある高校生による多言語絵本の読み聞かせ(10言語)
- やさしいにほんごとイラストで学ぶ親子防災ワークショップなど



3 JR桃谷駅周辺自転車整備事業の受託・実施

大阪市生野区の委託事業「JR桃谷駅周辺地域自転車利用適正化協働パートナー事業」を受託して運営をしました。区内の5つの地域まちづくり協議会(御幸森、東桃谷、鶴橋、北鶴橋、勝山)の啓発指導員27名が、年間約8,000時間あまり駅前の自転車放置禁止区域に停められている自転車の整備や交通マナーの啓発活動に参加しました。

大阪市生野区における多文化共生のまちづくりに向けた不可欠なエビデンスとして、生野区における“日本語指導が必要な”子どもに関する調査を実施し報告書にまとめました。また地域、行政、大学・学校、NPO、企業などの多様なステークホルダーを招いた対話の機会を設け、多文化共生を軸にした学校と地域連携の重要性について提言しました。

1 「生野の“日本語指導が必要な”子ども白書」報告会

生野の“日本語指導が必要な”子ども、保護者、支援機関へのインタビューから、支援と地域のあり方を提言しました。

参加者数

99
名



開催日 6月26日(日) 14:00～17:00

主催 NPO法人IKUNO・多文化ふらっと／NPO法人クロススペース

場所 在日韓国基督教教会館(KCC) 協力 大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

2 シンポジウム「いくの発！多文化共生教育の実践と地域連携」

参加者数

86
名

府立大阪わかば高校の多文化共生教育の現状や、「教育」「子育て」を軸とした学校・行政・地域との連携・協力の「現住所」について報告し、今後の課題について共有する機会となりました。

開催日 2023年1月28日(土) 14:00～16:00

主催 わかばプロボノプロジェクト実行委員会(大阪府立大阪わかば高等学校／NPO法人IKUNO・多文化ふらっと)

協力 生野区役所保健福祉課(子育て支援室) 場所 いくのパーク 多目的室

オンライン参加を含む

2022年度 活動計算書等 2022年4月1日から2023年3月31日

活動計算書

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	50,000	
賛助会員受取会費	240,000	290,000
2. 受取寄附金		12,291,697
3. 受取助成金等		
受取民間助成金		62,182,598
4. 事業収益		
受託事業収益	2,806,071	
雑収益	1,500	2,807,571
5. その他収益		
受取利息	78	
雑収益	993,698	993,776
経常収益計		78,565,642
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	10,036,570	
(2) その他経費	12,191,475	
事業費計		22,228,045
2. 管理費		
(1) 人件費	0	
(2) その他経費	6,920,836	
管理費計		6,920,836
経常費用計		29,148,881
当期経常増減額		49,416,761
III 経常外収益		
過年度損益修正益	840,593	
経常外収益計		840,593
IV 経常外費用		
過年度損益修正損	7,000	
経常外費用計		7,000
税引前当期正味財産増減額		50,250,354
当期正味財産増減額		50,250,354
前期繰越正味財産額		3,956,617
次期繰越正味財産額		54,206,971

※当期正味財産増減額には、固定資産額及び借入金等が含まれます。

※(公財)日本国際交流センター(JCIE)「外国ルーツ青少年未来創造事業」及び「(公財)日本財団「大阪府大阪市における『子ども第三の居場所』学習・生活支援モデルの開設と運営」の助成金を受けました。

2022年度 理事会・総会

■ 第1回理事会

【日時】2022年6月12日(日) 15:00～17:50

【議案】1. 2021年度事業報告について
2. 2021年度決算報告について
3. 2022年度事業計画(追加修正案)について
4. 2022年度収支予算案について
5. 改修事に伴う借入れについて

■ 第1回総会(みなし)

【日程】2022年6月17日(金)

■ 第2回理事会

【日時】2022年8月6日(土) 17:00～19:50

【議案】1. 2022年度事業の進捗状況の報告と意見交換について
2. 初期投資計画の現況について
3. 2022年度後期事業に向けて

■ 第3回理事会

【日時】2022年9月16日(金) 15:00～15:45

【議案】1. 借入金の承認について

■ 第4回理事会

【日時】2023年1月9日(火) 15:00～17:00

【議案】1. 2022年度事業の進捗状況について
2. 2023年度事業展開に向けて

■ 第5回理事会

【日時】2023年3月21日(火) 15:00～17:00

【会場】法人事務所

【議案】1. 2023年度事業計画に向けて
2. 2023年度事務局体制と業務分担について

ご支援のお願い

大阪市生野区は外国籍住民比率が全国都市部の自治体で最も高く、課題先進エリアと言えます。

生野区では家庭格差に基づく教育格差がますます広がる中で、外国ルーツの子どもが増加により、日本語学習のニーズが増えています。この地域が育んできた多文化共生の土壌を礎にし、今後日本社会が抱える社会課題に先進的に取り組んでいきます。

皆さまからの寄付金は、IKUNO・多文化ふらっとが目指す「誰一人取り残さない」多文化共生のまちづくりのために、以下の事業の運営に役立てられます。皆さまのご支援をお願いいたします。

- | | | |
|-------------------|---------------------|-------------------|
| ① 学習サポート教室 DO-YA | ④ いくPAのこども食堂～てんこもり～ | ⑦ コ・ラーニングスペース |
| ② 日本語学習サポート DO-MO | ⑤ いくPAの図書室～ふくろうの森～ | ⑧ いくの多文化クロッシングフェス |
| ③ 体験活動 DO/CO | ⑥ いくPAの農園～ぐるぐる～ | |

ご寄付

IKUNO・多文化ふらっとの活動にご賛同いただき、ご寄付いただける方は、ご自由な金額でのご寄付をお受けしております。

振込後、お手数ですが下記の多文化ふらっとのメールもしくはQRコード（寄付者フォーム）より、寄付された方の〈お名前〉〈ご住所〉〈連絡先〉をお知らせいただければ幸いです。

● 振込先 ● 三井住友銀行 玉造支店 普通
【口座番号】6925381 【口座名】特定非営利活動法人 IKUNO・多文化ふらっと

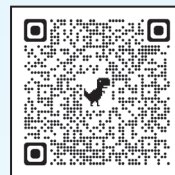


会員制度

NPO法人IKUNO・多文化ふらっとの活動にご賛同頂ける個人または法人団体の方は、正会員または賛助会員になっていただくことが可能です。

正会員の方には、毎年6月に開催される総会での議決権がございます。QRコード（会員フォーム）よりお申込みください。

【正会員】年会費1口 10,000円 【賛助会員】年会費1口 5,000円



AMAZON 欲しいものリストから物品を寄贈

子どもたちの日々の活動に必要な物品を寄付して頂けると有難いです。
右記のQRコードから Amazon のサイトへと移動します。



特定非営利活動法人 IKUNO
多文化ふらっと

〒544-0034 大阪市生野区桃谷5丁目5-37
いくのコーライズパーク A棟2階
【TEL/FAX】06-6741-1123
【E-mail】ikunotabunkaflat@gmail.com
【HP】<https://www.ikunotabunkaflat.org/>

